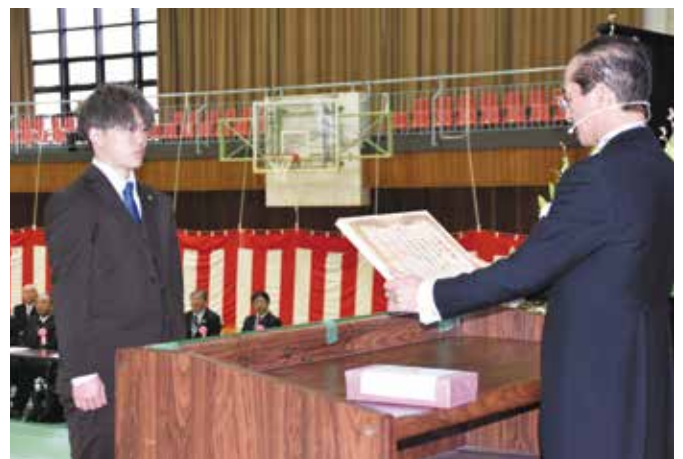


林大だより



第 89 号 令和 7 年 3 月 21 日

長野県林業大学校 卒業式



令和 6 年度 卒業 式

卒業おめでとう!!

翌松会 会長 赤羽 清吉



四十五期生の皆様、そしてご家族様、ご卒業おめでとうございます。二年間の全寮制による共同生活を過ごす中で、教育方針でもある『全人教育』に則り、その課程を見事に修得することとなりました。慣れない木曾谷での生活の中で苦楽を共にした仲間が一生の財産となることでしょう。

さて、卒業生の皆様におかれましては、四月よりいよいよ社会人としてスタートすることになります。二十名の進路は様々ではありますが、自分で決めた道に覚悟を持って進んでほしいと願います。世界情勢が不安定である今、決して楽な道ばかりではありません。迷うことがあれば、社会人一年目は恥をかいてでも先輩に教えていただきたいながら、前に進みましょう。学生生活においては、何となく発

した言葉でその場を乗り切ることが出来たかもしれません。が、中途半端な言葉・表現が職場では混乱を招くこともあります。言葉の一言一言に気を付けながら、一步一步着実に成長して林業に携わりながら林業会の第一人者として木曾谷から羽ばたいてほしいと思います。

保護者会長として、卒業生に偉そうなことも言えませんが、一つだけ：『桜梅桃李』という言葉をご存じでしょうか？ 桜は桜らしく、梅は梅らしく、桃は桃らしく、李は李らしく、それぞれが全く違う花を咲かせるということ、他人と比べることなく、自分らしい個性があり、ありのままの姿で成長し、自分を磨きながらやがては実を結ぶということ、人と違うというところは、単なる違いであり決して間違いではなく、長所短所があるからこそ個性があり、人には成長する力があるのだと私なりに解釈しています。

ず、林業大学校を卒業したこと誇りを持ち、謙虚さは忘れず林業を盛り上げてほしいと願います。最後になりますが、生徒の二年間に携わっていただきました全ての皆様方に感謝し、今後更に林業大学校と翌松会が飛躍出来ることをご祈念致します。

巳の成長

長野県林業大学校 校長 中宿 恵司



アダプト活動(春球根植え・バンジー植え)(11月)

卒業を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございませす。また、これまで卒業生を支えてこられたご家族の皆様ま、心よりお慶びを申し上げます。

コロナ禍が日本中・世界中を大混乱の渦に巻き込んでいた二年前、大学校という新たなステージに進む期待と、全寮制での共同生活という、初めての経験等への不安も入り混じった中で当校に入学され、この困難な時期に、本学で講義・実習と一人一人が頑張つて学業を修め、卒業を迎えられた皆さんのご努力とご苦勞に対し、校長として心からの敬意を表したいと思ひます。

今年度の干支は「巳」です。これまで努力してきたことが実を結び始める年、脱皮を繰り返しながら成長する前向きな年だと言われております。しかし今や、人生百年時代とも言われるように、皆さんが社会に巣立ってから経験する時間は、これまで学校で過ごした日々よりも、ずっと長い時間になります。

これまで学校で学んだことというのは、これからの皆さんの基礎になると思います。が、一方で、コロナ禍のように、これまで予想しなかったようなことが起こって、世の中が大きく変わってしまうということが、これから社会人として生活をする中でたくさん起こってきます。

また、実際に社会に出てみますと、どんな人間でも、目の前の仕事や自分や周りの人との関係で、さまざまな困難や課題に直面します。

そんな時に、その答えを見出し乗り越えていくためにも、自分の中にいろいろなき出しを持ってほしいです。すし、そのためには学び続けることが重要だと思います。

ぜひ四十五期卒業生の皆さんは、さらに人間性や社会性を高め、日々何事にも「探求心」と「自分磨き」を怠らなず、自分の中の引き出しを増やして、今後の林業・木材産業を支える人間となつてください。

皆さんが社会人として、そして一人の人間としてますます成長し、それぞれの道で大きく輝き、ご活躍されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。
「巳年 大きく羽ばたけ 林大四十五期生！」

「絆」で林業を今以上に！

長野県林業総合センター所長 向山 繁幸



四十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

林業総合センターとしても、講師の派遣やセンター内での実習など、皆さんの学生生活に関わったことをたいへんうれしく思います。皆さんが当センターに来て、講義や実習を受け、懸命に、時にはふざけあって先生に叱られている姿が目につかびます。私が昼に散歩をしていると元氣よくあいさつもしてくれました。さすががしく感じました。

では、ではないでしょうか。「絆」をしっかりとしたか。これからの人生の大切な「宝物」になると思います。私から皆さんに期待することは、長野県の森林・林業・木材産業を今以上に盛り上げることです。

昭和三十九年に木材の輸入が全面自由化になる前の昭和三十六年の長野県の素材生産量は、北海道に次いで全国二位の二一八万六千m³、製材工場数は九七六工場（総主力数二万五千kW、最大は昭和五十五年の約五万四千kW）、製品出荷量は約八十五万m³で全国七位（最大は昭和四十八年の一二九万m³）でした。しかしながら、令和四年の素材生産量は四十六万七千m³で全国十四位、製材工場数は一一八工場（総出力数約一万六千kW）で全国十位、製品出荷量は約十萬m³で全国

二十三位です。ちなみに、皆さんが生まれた頃の平成十六年の素材生産量は、二十六万m³で全国十九位、製材工場数は二九二工場（総出力数約二万六千kW）で全国八位、製品出荷量は約二十二万m³で全国二十四位でした。

守破離

信州大学名誉教授 植木 達人



長野県では、「森林県から林業県へ」と大きな目標を立てていますが、今から六十年

くらい前は「森林県であり林業県」でもありました。栄枯盛衰、皆さんが林業大学校で得た知識、技術、そして仲間同士の絆をフルに活用して、時には諸先輩方の意見も聞き、盛り上げていくことを大いに期待します。

また、長野県林業総合センターも忘れずにいてください。

四十五期生のみなさん、いよいよ住み慣れた学び舎を旅立つ時が来ました。この二年間は、かけがえのない時間であったかもしれないし、空しく過ぎた時間であったかもしれない。どう評価するかは自分のみぞ成しえることである。

人は自律的・主体的に何かを身につけようと思慮を巡らし、それを意識して過ごすこ

とができれば、多くの成長が期待できる。だが、依存的・受動的に日々を送り、自分の立ち位置を自覚できないまま過ごすのであれば、のちに悔恨の念にさいなまれる。自分の経験からそう思うことがしばしばある。時間は価値創造の根源なのである。生活した時間の価値は必ずやプラスであるけれど、生きようとする気構えや姿勢の違いによって、生まれる価値もまた異なる。

「守破離」という言葉を存じだろうか。もとは茶道の創始者千利休の訓、「規矩作法 守り尽くして破ると

も離るとも本を忘るな」から来てるらしい。意味は「茶道の」儀式・作法を徹底して学び、師の教えを修得し（守）、鍛錬と経験を重ねて新たな高みに達し（破）、最後に独創的発想による自分のスタイルを確立（離）する。だが、そうであっても基本を忘れてはならない（常に基本に立ち帰る）、このような意味のようである。ここで大事なことは、「守破離」は人の成長プロセスを示しているが、これは学問や林業、IT産業等のどの世界にも当てはまるということである。

われわれは先人たちが積み上げてきた知識や技術を、先ずもって徹底的に学ぶことであり、それがなければ次なる成長・飛躍はあり得ないのである。「守破離」の意味するところは、ダイナミックな人生観である。

君たちはこの二年間、多少なりとも意義ある時間を過ごしたと思う。行く道の価値創造は無限に広がっており、行き着く先もはるか向こうにある。「守破離」の教えは、そういう君たちの「成長の道しるべ」になるであろう。千利休の教えを忘れないでほしいと願っている。

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

一年を振り返って



1学年 石原 一輝

長野県林業大学校に入学して、早くも一年が経ちました。入学当初は、寮での生活や新しい環境に馴染めるか、また授業についていけるかといった不安がありました。しかし、同じ目標を持つ仲間を支えられながら学校生活を送るうちに、その不安も徐々に解消され、無事に一年を乗り切ることができました。

一年生の授業では、林業に関する専門的な知識を学ぶだけでなく、数学や英語といった一般教科、経済学や心理学といったこれまで学んだことのない分野にも触れました。どの授業も今後の仕事や生活

に役立つ内容ばかりでした。その一方で、専門知識だけでなく幅広い分野の学習が求められることに戸惑い、苦労する場面も多々ありました。しかし、先生方の丁寧な指導や仲間との助け合いによって、少しずつ理解を深めることができました。



1学年 10月 野生きのこ実習

一年間を振り返って



1学年 上田 千桜

長野県林業大学校に入学して、早くも一年が経とうとしています。入学する前は初めての寮生活への不安や、普通高校の高校に通っていたため、専門分野の授業についていけないかもという焦りがありました。しかし、実際に入

学してみたら、寮生活は思っていた以上に楽しく、今までより更に人間関係を深めることができました。勉強面も、丁寧に教えてくださる先生方や、一緒に考えられる友人達のおかげで楽しく学んでいます。私はここに入学したときに、「在学中にできるだけの多くの資格を取る」「人前で話すことに耐性をつける」という目標を立てました。人前で話すことに関してはこの一年、とくに朝のスピーチや週番の実習先でのあいさつを通して、少しずつ慣れてくることができました。二年次から始まる就活において、話すスキルは重要なものだと思うので、この調子で頑張っていきたいです。また、一年次ではあまり資格を取ることができなかったのですが、二年次では資格を取れるよう日々勉強に励みたいと思います。

四月から現在に至るまであつという間だったように、



1学年 篠田 和樹

一年を振り返って

きつと卒業までも時間が早く過ぎていくことと思います。だからこそ、この貴重な林大生活を悔いのないよう過ごしていきたいです。



1学年 11月 治山工学現地研修

長野県林業大学校に入学してから一年が経ちました。私は昨年まで社会人として働い



1 学年 11 月 測量学 (コンパス)



1 学年 2 月 小型移動式クレーン講習

ておりましたが、家業で林業を営んでいたこともあり、林業に興味を持ち、一から林業を学びたいと思い林業大学校に入学いたしました。久しぶりの学生生活、しかも寮生活で、年下の子ばかりの中で生活していくことは不安でした。しかし、屋久島研修等のイベントを通じて、徐々に仲良くなり、生活にも慣れ、今では楽しい学生生活を送らせていただいています。

授業では、一般教養から専門科目まで幅広く、特に専門科目では初めて聞く内容ばかりで、日々新たな学びがあり、楽しく授業を受けさせていたでいます。また、チェンソーの扱いについて、OBの方に指導いただいたり、二年生にアドバイスをいただいたりして、徐々に技術が上がってきたと思います。卒業後は毎日のように扱うと思うので、林大の仲間と切磋琢磨しながら、より洗練させていきたいと思っています。

最後に、もうすぐ二年生になります。みんなの模範となるような行動をし、出会い、ご縁に感謝しながら、残り一年間、悔いのないよう過ごしていきたいと思っています。



1 学年 土井 隼都

林大だより

林大に入学して早くも一年が経とうとしています。入学した当初は専門的な知識も知らないし寮生活ということもできるか心配でしたが、今は授業の内容が分かるところが増えてきたり生活力がついてきたりと一年前の自分では想像できないくらい成長できていると思います。

ところであと三ヶ月もすれば後輩が入学してきます。今までは先輩の助けを借りてきましたが、これからは後輩を助ける側になります。なのであと少しで卒業する先輩の姿を見て学びたいと思います。

さてあと数ヶ月で公務員試験です。まだまだ勉強量が足りないのこれから徐々に勉強の時間を増やしていきたいと思っています。自分だけでは達成できない目標なので、先生や同級生と力を合わせて目標を達成したいです。最後になりますがあと一年間だけの学生生活も楽しんできたいと思います。

一年を振り返って



1 学年 堀 望実

安がありここで学んでいけるのか心配でした。しかしあつという間に時間が過ぎました。四月に屋久島への研修旅行があり仲間との絆を深め、そこから少しずつ学校や寮生活にも慣れることができました。専門科目は最初、森林の知識がほぼなかったため、ついていけないか不安でしたが、授業や実習を通じて少しずつ知識が身につけてきました。先生方や先輩方のサポートもあり、充実した学びの一年を過ごすことができました。二年生になると、専門科目が増え、より難しい内容を学ぶことになります。特に北海道での研修や車両系の資格取得など、実践的な経験が多くなります。また、将来に向けて就職活動にも本格的に取り組む必要があるため、これまでの学びを活かしつつ、新たな挑戦を楽しみながら、自分の目標に向かって努力を続けたいと思います。残りの一年間も、有意義な時間を過ごし、成長できるよう精一杯頑張ります。

林業大学校に入学して一年が経ちました。初めは寮生活、専門科目など、多くの不

林大での二年間



2 学年 大 匠 守 樹

林大での生活も残りわずかとなりました。林大に入学したころは初めて実家を出るところにワクワクした気持ちと、うまくやれるかという不安を抱えていました。高校までの生活とは全く異なり、林大では自分でやらなければいけないことが多かったですが、友人が助けてくれたり、先生が

助けてくれたりしたため、何とか二年間生活することができました。

私は、高校で部活に専念し、遊ぶ時間が少なかったことから、林大では思い切り楽しみたいと思っていました。

林大では地域のイベントに参加することもあり、木曾のことも知ることができましたし、夏は、寮の裏の川で遊んだり、みんなで大声で歌いながらお風呂に入ったり、冬はウインタースポーツをみんなです楽しんだりなど、林大でしか味わえないことがたくさんありました。

私は、四月から地元で就職します。林大で出会った友人とは離れ離れになってしまいましたが、時々会って遊びたいと思います。

林大の生活はあとわずかしかなかったと悔いのないように精一杯楽しみたいと思います。



2 学年 10 月 林業機械学・王滝総合実習 (伐木)

感謝を込めて



2 学年 小 瀬 木 颯 真

林大に入学してから早くも二年が経ちました。入学当初は慣れないことばかりで緊張しっぱなしでしたが、寮生活や勉強にも慣れ、二年間でたくさんの経験をすることができました。この原稿が掲載される頃にはもう卒業しているというの信じられないくらい、あつという間の時間でした。半泣きになりながら練習したチェンソーや、林大の仲間と夜更けまで敢行したテスト前日の勉強会も、今となっては良い思い出です。屋久島と北海道の研修をはじめとした忘れられない思い出、楽しい出来事がたくさんありました。それと同時に、「森林を守る仕事をしたい」という私の目標に近づくことができるような授業も数多くあり、高校から目指していた林

野庁への就職を決めることができました。

仕事が始まってまた環境が一変しても、林大で学んだことを大切にしながら、森林の発展に貢献できるように精一杯頑張ります。「千里の道も一歩から」と言いますが、ようやくスタートラインに立てたという気持ちでこれからの日々を送ってまいります。そして、私を支えてくださった全ての方々に心からの感謝を申し上げます。

夢を追いかけて



2 学年 中 島 光 稀

私は中学生の頃に林業という存在を知り、ふとしたこと

から林業を志しました。林業については何も知りませんでしたが、「木こり」という漠然とした夢を追いかけて、この長野林大に入学してきました。

そして実際に林大で林業を学び二年が過ぎ、林業についての知識や技術を学んだことで、自分が追いかけてきた夢がどのようなものだったのか、少しずつ明瞭になってきました。林大で様々なことを学ぶ中で、林業の良い面だけでなく、悪い面も多くあることも知り、時には「私にとって林業の道を進み続けること



2 学年 11 月 林業架線学実習

は本当に正しい選択なのか」と悩むこともありましたが、林業を学んでから改めて「林業」と向き合い、なんだかんだありながらも、結局、私は林業が好きなんだということにも気が付きました。正直林業のことは未だによくわかっていないことが多いですし、技術だつて未熟で作業がままならないですが、私は山に入って作業をしている時、凄くワクワクします。

林大を卒業してしまえば春からもう社会人です。これまでの勉強や実習ではなく、本場の林業の現場で仕事をするようになります。きっとこれまで以上に辛い作業や嫌なこともあるだろうと思いますが、これからは一人の林業人として大好きな林業で生きていこうと思います。

また、私がこうして二年間林大でのびのびと学ぶことができたのは、地域の皆様のご支援があったからこそです。二年間本当にありがとうございました。



2学年 12月 木材利用コース (木の文化論)

二年間を振り返って



2学年 福田 宝

林業大学校に入学してから、早いもので、二年が経ちました。入学当初は初めての寮生活や、進路のことで、不安に思うことがたくさんありましたが、四十五期の最高の仲間たちや、先生方、家族のサポートを受け、あつという間に卒業が近づいていました。

一年次は、初めて学ぶ林業のことや、屋久島研修で、頭



2学年 1月 体験研修 (そば打ち)

も体もいっぱいいっぱいになっていましたが、多くのことを学んでいるうちに気が付いたら一年が経っていました。

二年次では就職活動や、寮祭、三林大、北海道研修などのイベントごとが多くあり、さらに一年が早く経過するのを感じました。

四月からは私も社会人の仲間入りをします。不安に思うことも多くありますが、林大にいる間に学んだことは絶対に無駄にならないと思っておりますので、卒業後も頑張っていきたいです。

改めまして、先生方、家族、そして四十五期みんな、ありがとうございました。

二年間を振り返って



2学年 渡辺 柁生

私が在学中印象に残っていることは自主研究での活動です。狩猟免許を取得し、メンバーと共に地域の猟友会の方々と関わる中で多くの学びを得ることができました。

き、その難しさや動物の野生の勘を学びました。調理ではジビエ肉特有の臭み、弾力、滋味豊かさに初めて触れ、その美味しさに驚きました。

活動の中で木曾福島の猟友会をはじめ、木曾町役場建設農林課、林大の先生講師、及び先輩方の助けを頂きました。また、今回自主研究の授業を一例として取り上げましたが、卒業までの間支えて頂いた多くの方に感謝しています。本当にありがとうございました。

研究ではセンサーカメラを使ったり生態調査から始まり、罠の設置、見回りのジビエ肉の調理までを行いました。センサーカメラで写っている動物を捕ろうと罠をかけるのですが、成果の上からない日が続



2学年 1月 山の環境学 (乗鞍高原)

保護者の
ページ

絵

の

一言

林大生になって

伊藤 学



高校入学。普通科ではな

く林産工芸科を選んだ我が子。友達にも恵まれ部活動に励み、様々な実習も経験して充実した高校生活を送りました。『さて、これからどうしたい?』となった進路選択の高校三年夏。自然の中で体を動かす環境に導かれるように今、林業大学校にいます。先方や諸先輩方からたくさんこのことを見聞きし、体感することで自分のスキルを磨く毎

日を過ごさせていることに大変感謝しております。そして毎日の食事をご準備くださる寮母さんのおかげで元気に暮らし、また学祭やお祭りなど、地域との繋がりが深く、社会勉強も同時に学べています。こんなにも恵まれた状況に身を置けていることが親としても本当にありがたいと感じています。

ムワークがなければ成り立ちません。他では得られない専門知識や、研修の経験は必ずやこれからの人生の糧となることでしよう。林大で学ぶべきことを今一度考え、自分とご縁をいただいている方々への感謝の気持ちを忘れずに、また気持ち新たに二年生を迎えて欲しいと願っています。



1学年 10月 ハスクバーナトップガン研修

人生の選択

北原 由美



素敵な仲間、信頼できる先生方に出会えたことを本当にありがたく感じております。林業に携わりたいと話してい

た息子。親も周りにも従事者はおらず、なぜ林業なのか? 森林環境に興味を持ったのから研究の方に進むのかと思いきや「自分のやりたいことは現場だ。」進路を決める際も林大一択でした。

強い思いを感じながらも親としては心配もありましたが、オープンキャンパスに参加した際、案内してくれた学生たちに林大の感想を聞く「楽しい」「寮生活が楽しい」「とにかく楽しい!」学生たちの純朴な姿に未来の息子の姿を重ね見て、こんなに

楽しく学び生活できる場所ならと選択の後押しとなりました。そして、あの時元気に話をしてくれた学生たちのように帰宅の度、新しい学びや仲間との生活、地域での繋がりの話など。本当に先輩たちが話していたように楽しくやっているのだなと耳を傾けながら笑顔になる家族です。とは言え危険が伴う仕事ですので怪我をせず、自分の目標を見失うことなく進んでいって欲しいと願う毎日です。

日本の未来は 任せた!

清野 基



かつてから、山の中で働きたいと思っていた息子は林大へ進学する道を選びました。この話をすると、ほとんどの人が「いい道に進んだね」と言ってくださいますし、わたし自身もそう思っています。わたしの父の実家は山形の山中の村ですが、親戚の皆さんの話によれば、「畑をやっても儲からん」と言っていて、農業から離れていく人が増えていくのだそうです。そのように一次産業に従事する労働者の数が減っていく中で、あえて林業という、日本の自然を守る仕事に進んでいこうとする息子を見て、親としては胸が躍る思いです。我が家には息子と共に林大の学生達が遊びに来てくれて、泊まってい



2学年 11月 高性能林業機械特別教育

子達もいます。彼らは皆、日本の豊かな自然の中で生きていくことを喜んでおり、このような子達に次世代の日本の力を見ることが出来ます。木を育て、未来を育てるそんな彼らにぴったりの聖書の言葉を贈ります。「涙と共に種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取る。種入れを抱え、泣きながら出て行く者は、束を抱え、喜び叫びながら帰ってくる」(詩編126:5、6)

飛躍の一步

沼田 悟



息子が長野県林業大学校に入学して早いもので一年が経とうとしています。この一年は新たな分野の学びと友人に出会い、林大でのさまざまな経験を通じて成長する貴重な時間となったと思います。林大での生活は学問だけでなく人間関係や自己管理を養う場でもあると思います。残りの一年を充実させるためには、まずは目標を明確にし、努力を怠らずに、将来の夢に向かって頑張ってもらいたいです。

寮生活では多くの人と関わる機会があります。友人との交流を大切にして、さまざまな価値観や考え方に触れることで視野を広げることができ、勉強だけでなくインターンシップやボランティア活動に積極的に参加し、充実した

林大生活を送ってほしいと思います。

息子が自分の夢に向かって努力する姿を見守ることは親としても大きな喜びです。これから困難なこともあるかもしれないですが、仲間たちと共に助け合いながら一歩ずつ前進していく姿を見守りたいです。この場をお借りしてご指導いただいている、先生方と生活を共にしている林大生の皆さんに感謝と御礼を申し上げます。

林大との出会いを大切に

脇田 桂子



寮生活、最高に楽しい！入学後、初めて聞いた息子の言葉です。原村の森の中で育った息子は、幼少期から夢中で木の上の秘密基地を作るなど、兎に角、野外が、自然が大好き。高校で長野県林業大学校を紹介して頂いたときは、こんなにも息子にお

眺め向きの学校があったものかと、親子で入学を願って毎日祈っていました。

最高の天候に恵まれた屋久島の旅に始まった四十六期生の林大での学び。林大だから学べること、林大でなければ経験できないこと、それらすべてが彼のこれからの人生の確かな土台となっていくと信じています。林大の先生方や仲間との出会いは、これから先の人生において、何物にも代えがたい宝物ですね。今の自分にできることに真摯に向き合い、林大で学べることに誇りをもって、一日一日を大切に過ごしてください。謙虚さと感謝を胸に思い切り楽しんでください。いつも応援しています！

卒業にあたって

衛藤 亀鶴

まだまだ考えの甘い息子は、寮生活がちゃんとおくれるのだろうかという不安の中、林大に送り出し、入学したかと思っていたら、あっという間に卒業。アルバイト先やたくさんの人に支えられ息子は充実した二年間を過ごせ

たと思います。寮生活は常に誰かがそばにいて、一人の時間をあまりもてず、大変なこともあったかと思いますが先輩、同級生、後輩と共に生活し協力しあうことで、乗り越えられたのだと思います。寮生活でなければ経験できないもの、林大でしか経験できなかったことをこれからの社会人生活にいかしてもらいたいと思います。二年間という短い間でしたが、お世話になった学校関係者様、木曾地域の皆様には温かく見守っていただき、親子ともども感謝の気持ちでいっぱい입니다。本当にありがとうございました。

夢のその先へ

雲野 耕介



息子が小学生の頃、私の知人で間伐材を利用してスノーボードを作る人たちがいました。彼らの話で、日本の森は死んでいる。それは間伐が進



2学年 11月選択治山工学（溪流測量）

まず、山々の木々がしっかりと成長せず根を張る事が出来ないから大雨で倒木し、川に流れ出て水害をおこしたりするんだよ。と言う様な話を聞き、林業に興味を持ったと思います。小学校の卒業文集で、将来は林業に携わり日本の森を復活させたいと夢を抱いていました。それから三年、高校進学で迷いもなく林業が学べる木曽青峰高校に進学、更に林業大学校へと進み、自身の夢に向かい二年間より深く林業を学んだと思います。

夢への第一歩として、卒業後は林業従事者となります。これから先は、これまで学んできた事、そして現場でしか学べない事を活かして周りに感謝しつつ、自分自身で夢の先を見に欲しいと思

います。

最後になりますが、先生方、職員の皆様、二年間温かく見守って頂き本当に有難う御座いました。

可愛い子には旅をさせよ

佐野 秀樹



ことわざで『可愛い子には旅をさせよ』がありますが、私は息子を通じてこのことわざの意味を体現することが出来ました。

地元で親元から離れることなく生活してきた『井の中の蛙』の私にとって、いくら寮生活とはいえ親元から離れて暮らす息子のことが心配で心配で…。

しかし、私の心配をよそに、息子が毎回帰省する度に、大人になっていくのが手に取るように分かりました。あの頼りなかつた息子が立派に成長したことは大変嬉しいですが、親から巣立つのは淋

林大の学び

長谷川 貴裕



息子が林業大学校に入学して早くも卒業を迎えようとして

しくもあります。

そして、いよいよ春から社会人、これから人生の旅が始まります。今までは何か困った時には、身近に仲間や先生方がいてアドバイスを相談にのってくれて助けてくれましたが、これからは本当の意味での独り立ちです。社会の大海原は穏やかな時もあるれば、荒れ狂う時もあります。失敗や挫折、孤独感などいろいろな経験すると思いますが聖なら大丈夫です。貴方には沢山の仲間がいます。家族がついてます。しっかりと舵を取り自分を信じ、自信を持って夢に向かって漕ぎだしてください。

ています。

高校から林業について学び、さまざまな資格や免許を取得してきました。もっと林業について学びたいと知識と技術の両方を学べるこの林業大学校に入学を決意しました。

入学後に、息子が帰省してくると木の香りがして、林業について木に囲まれ学び、素晴らしい寮での生活を満喫しているんだなと実感しまし

二年間の感謝

宮原 悟史



長野県林業大学校第四十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。並びに保護者の皆様ご卒業おめでとうござ

います。二年前に林業大学校の門をくぐり早いものであったという間の二年間だったでしょう。そしてこの間ご指導下さった

た。また林大ならではの学びや屋久島や北海道研修といった貴重な体験もさせていただき人生の財産になっていると思います。

同じ林業を学んだ友達、林業について教えてくださった先生方、毎日美味しい食事を作ってくれた寮母さんに感謝し、これからの林業分野における技術を活かした新たな時代の担い手になって欲しいと思います。

先生方及び関係者の方々皆様には深く感謝お礼申し上げます。

さて、いよいよ卒業ですね。この二年間で林業大学校で学び培ってきたことを大切にして下さい。必ず自分自身のスキルになると思います。それに二年間寮生活と勉強を共にしてきた仲間とのことも忘れずこれからの社会人のスタートとして頑張ってください。

最後に親として長野林業大学校に進学させて本当によかったと思います。息子の成長を目に見えて感じました。卒業おめでとう。

今想う林大の「絆」



第六期
渡辺 孝

四十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。あつという間にこの日を迎えられ、これから始まる新生活に期待を膨らませている人も多いことでしょう。

私が卒業して、早いもので四十年が経とうとしています。入学式前日の入寮日に、現在の校長先生（中宿先輩）を始めとする先輩方に今では考えられない熱烈な歓迎をしていただき、期待と不安が倍増したことを昨日のこのように思い出します。また、入学した昭和五十九年は長野県西部地震が発生し、校庭は臨時ヘリポートとなり、実習は災害現場の測量や設計のお手伝いを行ったことなど記憶し

ています。自然災害の恐ろしさを体感するとともに実務的な貴重な経験をさせていただいたと思っています。林大は、厳しさと楽しさが同居する全寮制です。寮生活を通じ団体生活のなかで得た自立心や友情、他人への思いやりなど生きる力を身につけられる二年間だと思っています。現在と当時では、社会情勢や森林林業を取り巻く環境は随分と違いますが、変わらないものがあります。それは教育

方針の「全人教育」ではないでしょうか。林業に関する専門的な知識と技術の習得は基より、この寮生活を経て社会人となる意味は大きなものがあると思っています。私は、卒業後地元役場に奉職し林務担当を皮切りに現在は、皆様のご協力を得ながら副村長として重責を担わせていただいています。最近、仕事にプライベートにこの四十年の林大の絆を感じる事が多くあります。恩師の絆、同級生の絆、先輩や後輩の絆は、

私の宝です。卒業生は、即戦力として各方面で活躍し、心強い存在です。また、学生に森林ボランティアの受け入れのお手伝いや実習のフィードバックを提供することもありました。頼もしい存在であり、今後も林大の絆に大いに期待しています。

結びに、我々六期生の卒業記念の校名板を見るたびに林大を卒業したことを誇りに思い、林大の更なる御発展をお祈り申し上げます。

林大での二年間を力に



二学年担任
萩原 淳

令和五年四月、林大に赴任すると同時に四十五期生の担任となりました。林大での勤務は初めてで、周囲の先生方に支えられながら、あつという間に二年が過ぎ、四十五期の皆さんの卒業が迫っています。

檜のアドバイス

す。担任としての責務を全うできたのか、学生にとっては頼りない担任だったのかも少しありません。

四十五期生は高校時代の三年間を、新型コロナ禍の中で行動を大きく制限された中で過ごす場面が多かったかと思

います。そして林大に入学生し、全寮制で四人部屋、という生活が始まりました。入学後一ヶ月、寮生活にも慣れ、新型コロナが五類に移行した頃からは、これまでできな

かったことを取り返すかのようになり、学生同士、濃厚にしゃべり合う姿を日々目にしました。全員男子、ということもあり、大変明るく活発な子たちだなあ、と頼もしく思い、時には呆れながら見ていました。

林大での二期間は、皆さんにとっていかがでしたか。日々の時間割は講義や実習が隙間なく入っていて、息つく暇もなかったかもしれませ

ん。そして放課後は濃厚な寮生活。制約も多く、理不尽な思

いをした場面もあったかもしれませんが、仲間と意見が合わず対立した場面もあったでしょう。しかし、今後生きていく中で、すべてが自分の思う通りになるなどということはありません。しんどい状況を乗り越え、異なる意見に対し、折り合いをつけていくことが必ず必要になります。この二期間で皆さんはその力が大きく養われたのでは、と思います。

四月から社会人となりま

す。それぞれ選んだ仕事に取り組んでいく中で、数々の困難に直面するでしょう。林大での二期間で学び、経験したことが、その困難を乗り越える力になることを願っています。林大で学んだこと、特に安全面で学んだことに関して、いつも頭の中において行動してください。そして何よりも明るくエネルギー溢れる皆さんのままでいてください。四十五期生の活躍を応援しています。またどこかで会いましょう。

四月から社会人となりま

林大生の活動報告

時が経つのは早いもので、令和6年度後半6ヶ月も瞬く間に過ぎる中、林大生は地域の行事にも積極的に参加し、住民の皆さまとの交流を深めていくことで、更に頼もしく成長することができました。また、今年の冬は例年になく雪も多く寒さが厳しいものでしたが、林大生のパワーで無事乗り切ることができました。

寮祭（木望祭）（10月5日）



学生自治会が準備を進め、実行委員長を中心に開催しました。当日は保護者の方のほか、地域の皆様も多数ご来場いただき、学生によるスゴ技披露をはじめ、各ブースも盛況でした。

木曽町駅伝大会（10月20日）



1、2年生合同の2チームで参加し、1本のたすきを繋いでゴールを目指しました。木曽路を駆け抜け、気持ちのいい汗を流すことができました。結果は、4位入賞でした。

三林大伐木選手権大会（11月14日～15日）



京都で行われた、三林大（長野・京都・岐阜）伐木選手権では、日頃の成果を競い合いました。残念ながら優勝は逃したものの、林業を志す者同士、熱い交流を深めることができました。

雪灯りの散歩路（2月6日～9日）



木曽路の冬の風物詩に、林大生はスタッフとして、アイスクャンドルの運搬設置から当日の運営、後片付けまで4日間を通じて参加しました。雪が降るなど寒い中、頑張りました。



■事務局 長野県林業大学校内
〒397-0002
長野県木曽郡木曽町新開4385-1
TEL 0264-23-2321
FAX 0264-21-1058